

ラーニングクラスター

東京フィールドワーク実施報告

■目的 ラーニングクラスターの生徒が研究を進める 4 分野（環境・開発・人権・平和）について、1 学期間かけ学んできた地球的課題の理解や考えてきた解決のための提案を専門家へプレゼンテーションを行い、また専門家の方々とのディスカッションを通して、理解をさらに深化させるとともに、地球的課題への具体的な提案作成の準備をする研修とする。

■期間 2016 年 7 月 21 日（木）～7 月 23 日（土）

■参加者 高校 2 年生 13 名、高校 3 年生 11 名 計 24 名

■事前学習・準備

- ・6 グループに分かれ、国連が提唱する「持続可能な開発目標」（SDGs）よりそれぞれが探究したい目標を 1 つ定め（下図参照）、その目標に関連するグローバルイシューを 1 つ選び、全て英語で学び、現状把握に努めた。また、ディスカッションやリサーチを通し、可能な限り具体的に解決案を模索した。
- ・訪問先での現状と解決案のプレゼンテーションの準備を行った。

グループ	SDGs	探究課題
1	No Poverty	Child poverty in Japan
2	Zero Hunger	Food deviation: Cases of Zambia and Angola
3	Gender Equality	Promoting gender equality through school education in Japan
4	Decent Work	Child labour
5	Peace and Justice	Terrorism
6	Quality Education	Peace education on Hiroshima and Nagasaki

■行程

< 1 日目 >

7 : 3 0 に新大阪駅に集合し、7 : 5 0 の新幹線で品川駅へ移動。品川駅で 2 グループに分かれ、1 つのグループは国際連合の機関の一つであり、女性の地位向上のために活動している UN Women を訪問し、食料問題に取り組んでいる NGO 団体の Hunger Free World (HFW) を訪問。

UN Women では駐日代表である福嶋代表の前で、Gender Equality グループがジェンダーの平等と女性のエンパワーメントについて研究成果のプレゼンを披露。その後、代表とディスカッションを行い、探究に向けてのアドバイスを頂いた。福嶋代表は、「女性だけが女性のために活動するだけでは、ジェンダーの平等は達成されない。だからこそ、男性のジェンダーの平等に対する意識の向上が大事。」と何度も強調されていた。参加した生徒は、「初めて人の前でプレゼンを行って、調べるたりするだけでなく、それらを発信していくことにとっても意味があると感じました。ディスカッションをする中で、今まで自分たちになかった発想や、知らず知らずのうちに自分たちの周りにも男女問題が存在することを改めて深く感じ、知ることが出来ました。」と語り、大いに学びを深めた。

一方、Hunger Free World では、Zero Hunger グループがプレゼンを行い、青少年育成担当の熊坂真輝さんよりプレゼンの内容に関するフィードバックと講義をしていただいた。講義を通じて、世界の食にまつわる現状や、HFW の活動の様子を学ぶとともに、慢性的飢餓、つまり継続的に食糧を手に入れられない人々に向け、どのようなサポートをする必要があり、できるのかを考えさ

せられる内容だった。参加した生徒は、「私たちのグループは飢餓問題で苦しんでいるザンビアと飢餓問題を解決しつつあるアンゴラを通して、食糧偏差について調べ、プレゼンを行いました。熊坂さんからのフィードバックや講義から、私たちのリサーチで目につけていなかった観点を発見し、自分達のリサーチの新たな目標を見つけることが出来ました。」と語り、更なる課題を発見することができた。

午後からは国連大学を訪問し、近藤哲生 UNDP 駐日代表と田口晶子 ILO 駐日代表とセッションを行った。近藤代表は国連の3つの目標（平和、開発、人権）、基本的価値観（整合性、プロ意識、多様性の尊重）に関してのことや UNDP の歴史や活動などに関して講義をされ、2000年に発表されたミレニアム開発目標（MDGs）が「人間の安全保障」に基づいて発案されたこと、また、サハラ砂漠より南のアフリカ地域では望んでいた結果が出なかったことや妊産婦の健康改善に関しても同じく結果が出なかったこと、昨年2015年に発表された持続可能な開発目標（SDGs）には、これまで注目されてこなかったことも新たに加えられたということに言及。その話に生徒からは「実際に、世界平和の実現のために最前線で戦われている近藤代表の、このようなたくさんの貴重なお話を聞かせて頂いたことは、私たちがこれからリサーチを進めていくにあたってかけがえのない財産になりました。」とコメントした。

また、ILOの駐日代表の田口晶子さんへは、まず Decent Work グループがプレゼンを行い、フィードバックをいただいた。その後、ILO の歴史や方針、世界の失業率など、ディーセントワークに関するさまざまな問題や課題について講義をしてくださり、多くの発展途上国では若者が働いているのに貧困に苦しんでいるという現状があり、この理由として、内的な要因である性別による格差や非正規労働者の賃金が低いというような様々なことが問題になっていると語られた。Decent Work グループの生徒は、「私達が問題点として挙げた労働者の持っている技術と要求される技術との不一致については深刻な問題ではなく、会社に入ってからそのような技術を鍛えることが大切ということをお教えました。講義を通して、仕事の質に関する問題は外的要因と内的要因が相互に作用しあって引き起こされており、それらは国によって異なることを学びました。だから、これからの学習ではより深く様々な方向から考え、全ての人が働きがいのある人間らしい仕事を獲得できるような方向を探求していきます。」と新たな方向性を見つけ出すことができた。

< 2日目 >

2日目は市ヶ谷にある JICA を訪問し、ワークショップに参加。5つのグループに分かれ、カカオ栽培の経営者や労働者、日本のチョコレート会社社長などの役になりきり、経済的損得から、チョコレート生産がいかに不平等に行われているのかを体験的に学習。生徒からは「カカオの収穫は児童労働により安定しており、生産国の子ども達の未来を奪っている事実を知り、先進国の私達に解決義務があると感じました。また、知識だけでなく実際に体験することの重要性を実感しました。」と熱意あるコメントが聞かれた。

午後からは創価大学に移動し、それぞれのリサーチグループ毎に教授と少人数でのセッションを行いました。各セッションでは、まず生徒からプレゼンを行い、それに対するフィードバック、その後、担当教授とディスカッション形式で学びを深めた。事前に担当教授の方々には参考資料や改善すべき点のまとめなどを準備して下さっており、話の内容は非常に深いところまで達し、用意されていた1時間では足りず、延長するグループが続出した。

例えば、Gender Equality グループを担当された坂本辰郎教授は生徒のプレゼンに対し、女性の内面的力の開花という点において、「では男性の内面的力の開花は？」と質問され、男女平等な社会を作るためには女性だけでなく男性の力も大切だという点を指摘。生徒からは「この問題を根本から解決

するには、男性の意識の改革も欠かせないという新たな視点を得ることができました。」との感想が寄せられた。

17:00からは前国際教養学部学部長のマリア副学長補の講義を拝受。現在はデンバー大学の理事もされているマリア副学長補の講義は座学ではなく、他のグループとディスカッションをするアクティブラーニングの形で行われた。このアクティビティを通し、自分たちの要求と相手の要求を同時に満たすことの難しさや、それを叶えるためにグループ（協定）を作ったりしてうまく取り入れることの重要性を学び、これが実際に世界のあらゆる国と国との間で行われていることを知り、改めて外交の難しさを学んだ。生徒は「国際化は良い、悪い関係なくそこにあり必要不可欠であること、さらにその為には信頼、創造性、コミュニケーションなど、人と人との間で大切なことが重要であるといった、新しい発想も学ぶことができました。」と感想を述べた。

< 3日目 >

午前中を学習のまとめの時間に充て、午後の新幹線で新大阪駅と帰阪し、解散した。

■東京フィールドワークを終えて（生徒談）

私達はこの3日間、先生方の事前の準備と協力のもと多くの国際機関、組織を訪問させていただきました。このフィールドワークを通し学んだことが2つあります。

1つめは、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことをしない」ことが、いかに難しいことであるかということ。レクチャーを受ける中で、今、この時でさえ 誰かの不幸の上に私達の生活の安定が成り立っていることを痛感させられました。更に、私達の多くはそのことに気付かず生活をしているのです。私達にはこの格差を解決する義務があると感じました。

2つめは、“Youth”である私達“青年”が、世界平和実現の可能性を信じることからすでに世界平和は実現の方向へ向かっているということ。私達は、時に、世界的課題とは、とてつもなく大きく、解決するのに一体どれだけの時間を要するのかと疑問に思う時があります。しかし、今回の研修で、本当に沢山の人が世界的課題の解決に取り組んでいる事を実感し、また皆さんが世界平和実現の可能性に確信をもち働いていらっしゃいました。

色んな講師の方が、若者は想像力、また創造力豊かであり、皆がこの力を使い新たな解決策を作っていく余地がある、と教えてくださいました。そして何よりも創立者池田先生は青年に期待を寄せ、青年の力を誰よりも信じて待って下さっています。

3日間、お世話になった学園の先生方、各機関、各組織、大学、講師の方々、そして池田先生、奥様に感謝申し上げます。ありがとうございました。